

4

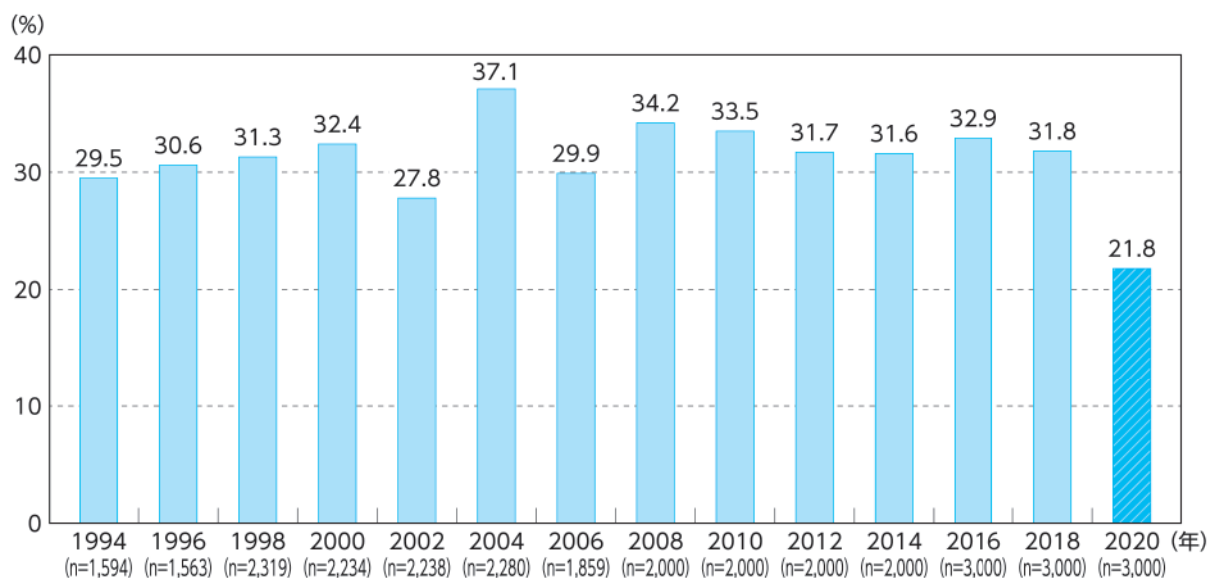
スポーツ観戦

4-1 直接スポーツ観戦率

過去1年間にスタジアムや体育館等で直接スポーツを観戦した者の割合を図4-1に示した。2020年の直接スポーツ観戦率は21.8%であり、前回2018年の31.8%から10ポイント減少し、1994年以降で最低となった。新型コロナウイルス感染拡大に伴う直接観戦の機会減

少が反映された結果と判断される。また、今回の結果から、過去1年間のわが国における直接スポーツ観戦人口は2,305万人と推計された。

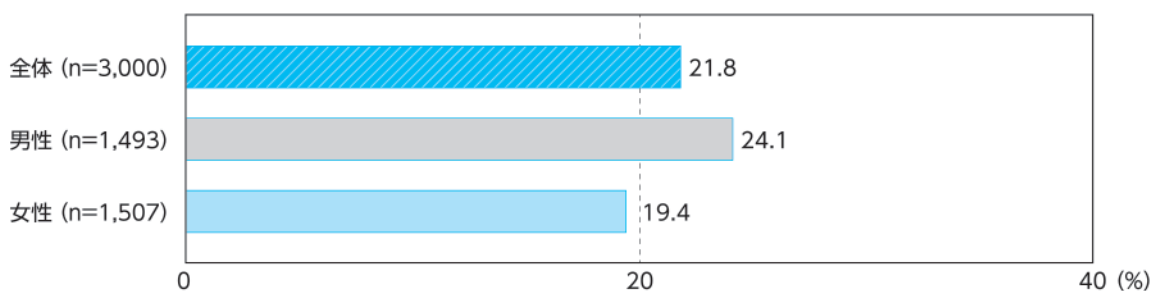
図4-2は性別にみた直接観戦率である。男性は24.1%、女性は19.4%で、男性が女性を4.7ポイント上回っている。



【図4-1】直接スポーツ観戦率の年次推移

注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



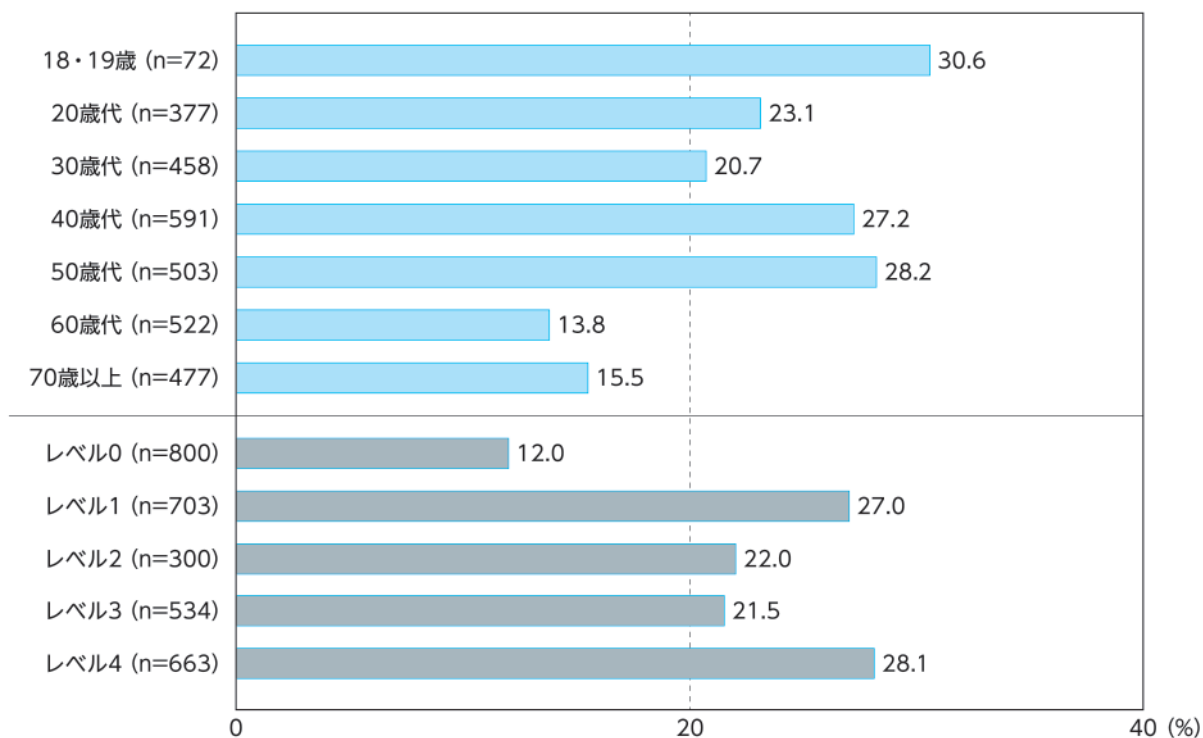
【図4-2】直接スポーツ観戦率(全体・性別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

図4-3には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別の直接観戦率を示した。年代別では18・19歳30.6%と40歳代27.2%、50歳代28.2%の直接観戦率が約3割と高く、次いで20歳代23.1%、30歳代20.7%、70歳以上15.5%、60歳代13.8%であった。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、最も高い直接観

戦率は「レベル4」の28.1%で、前回2018年の42.3%から14.2ポイント減少した。次いで「レベル1」27.0%、「レベル2」22.0%、「レベル3」21.5%となり、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」の直接観戦率は12.0%と最も低かった。



【図4-3】直接スポーツ観戦率(年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

COMMENTS

■私はスポーツを「する」よりも「観る」方が好きです。先日、観客を入れた陸上競技の大会に行きました。コロナ禍で、現地観戦ができずテレビやインターネットで間接的に観ていただけだったので、久々の生観戦はとても感動し、同時に、「この辛い状況の中だけれど前向きに生きていこう」と元気をもらいました。(21歳 女性 学生)

■地方でもいろいろなプロスポーツの観戦ができることを期待します。テレビでしか見られないのは、ちょっと面白くないです。(57歳 女性 パートタイム・アルバイト)

■早くコロナ禍が収まり、大声でスポーツ観戦ができることを願っています。(56歳 男性 サービス職業)

■もっとスポーツ観戦がしやすくなるといいなと思います。スタジアムへの移動、車の渋滞、スタジアム周辺のパーキング不足など…小さい子供がいると、車での移動が便利なので、それらの要素が解消されるとスポーツ観戦しやすいのになと思います。(34歳 女性 専業主婦・主夫)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

4-2 直接スポーツ観戦種目

表4-1は種目別の直接スポーツ観戦状況である。まず、回答者全体において観戦率が高かった上位10種目を取り出し、18歳以上人口を乗じて推計観戦人口、観戦回数、推計動員数を算出した。1位の「プロ野球(NPB)」の観戦率は9.6%、推計観戦人口は1,015万人となる。2位から5位の観戦率は「Jリーグ(J1、J2、J3)」3.3%、「高校野球」2.8%、「マラソン・駅伝」1.6%、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」1.4%であった。2018年と比較すると、いずれの種目も観戦率が低下している。6位以降にはバスケットボールやバレーボールなどが入った。

次に、各種目の観戦者における観戦回数の平均値を算出した後に推計観戦人口を乗じ、延べ観戦者数である推計動員数を算出した。観戦回数が最も多い「サッカー(高校、大学、JFLなど)」6.51回を筆頭に、次いで「バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)」5.83回、「高校野球」2.94回、「Jリーグ(J1、J2、J3)」2.85回と続く。推計動員数は「プロ野球(NPB)」2,517万人、「Jリーグ(J1、J2、J3)」995万人、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」963万人を算定した。

表4-2には、直接スポーツ観戦率の上位5種目を性別に示した。「プロ野球(NPB)」が男性11.7%、女性7.6%と最も高く、男性が女性よりも4.1ポイント高い。「高

【表4-1】種目別直接スポーツ観戦状況(複数回答)

順位	観戦種目	2020年(n=3,000)				2018年(n=3,000)			
		観戦率(%)	① 推計観戦人口 (万人)	② 観戦回数 (回/年)	③ 推計動員数 (①×②) (万人)	観戦率(%)	④ 推計観戦人口 (万人)	⑤ 観戦回数 (回/年)	⑥ 推計動員数 (④×⑤) (万人)
1	プロ野球(NPB)	9.6	1,015	2.48	2,517	13.7	1,453	2.09	3,037
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.3	349	2.85	995	5.5	583	2.82	1,644
3	高校野球	2.8	296	2.94	870	5.8	615	3.03	1,863
4	マラソン・駅伝	1.6	169	1.28	216	3.8	403	1.34	540
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.4	148	6.51	963	1.9	202	7.14	1,442
6	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	1.0	106	5.83	618	1.5	159	3.38	537
	プロバスケットボール(Bリーグ)	1.0	106	2.21	234	1.7	180	1.65	297
8	アマチュア野球(大学、社会人など)	0.8	85	1.67	142	1.6	170	3.37	573
	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.8	85	2.78	236	1.1	120	3.26	391
10	大相撲	0.7	74	1.20	89	1.5	159	1.36	216
	ラグビー(高校、大学、トップリーグなど)	0.7	74	2.38	176	1.0	106	3.14	333

注1) 2020年の推計観戦人口:18歳以上人口(20歳以上は2019年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時点の住民基本台帳人口のうち、15～19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の105,750,654人に観戦率を乗じて算出。

注2) 2018年の推計観戦人口:18歳以上人口(20歳以上は2017年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時点の住民基本台帳人口のうち、15～19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の106,056,838人に観戦率を乗じて算出。

注3) 「ラグビー(高校、大学、トップリーグなど)」の2018年は「ラグビー」の値。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

【表4-2】種目別直接スポーツ観戦率(性別:複数回答)

男 性 (n=1,493)			女 性 (n=1,507)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	11.7	1	プロ野球(NPB)	7.6
2	高校野球	4.0	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	2.8
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.9	3	高校野球	1.7
4	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.6	4	マラソン・駅伝	1.5
	マラソン・駅伝	1.6	5	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	1.4

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

校野球」は男性の2位(4.0%)と女性の3位(1.7%)に、「Jリーグ(J1、J2、J3)」は男性の3位(3.9%)と女性の2位(2.8%)に入る。男性の4位は同率で「サッカー(高校、大学、JFLなど)」「マラソン・駅伝」1.6%であった。女性は4位が「マラソン・駅伝」1.5%、5位が「バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)」1.4%であった。

表4-3に示す年代別の直接スポーツ観戦率上位5種目をみると、すべての年代で「プロ野球(NPB)」が最も高い。18・19歳では「Jリーグ(J1、J2、J3)」も同率1位である。2位と3位には、20歳代から50歳代までは「Jリーグ(J1、J2、J3)」と「高校野球」、60歳代では「Jリーグ(J1、J2、J3)」と「プロゴルフ」、70歳以上では「高校

野球」と「マラソン・駅伝」が入る。また、30歳代と40歳代では「プロバスケットボール(Bリーグ)」、60歳代以上では「プロゴルフ」が上位5種目に入る特徴を見出せる。

表4-4には、今後、直接観戦を希望する種目を示した。「プロ野球(NPB)」が30.3%と最も高く、次いで「フィギュアスケート」が14.3%、「高校野球」が13.8%であった。また、直接観戦率では上位10種目に入らなかった「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」10.7%、「ラグビー日本代表試合」9.5%、「バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)」6.4%など、ナショナルチームの試合が直接観戦希望率では上位に入り、注目できる。

【表4-3】種目別直接スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=72)			20歳代 (n=377)			30歳代 (n=458)			40歳代 (n=591)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	Jリーグ(J1、J2、J3)	9.7	1	プロ野球(NPB)	11.9	1	プロ野球(NPB)	10.3	1	プロ野球(NPB)	9.3
	プロ野球(NPB)	9.7	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.7	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	5.5	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	4.4
3	高校野球	8.3	3	高校野球	2.7		高校野球	1.1	3	高校野球	3.4
4	バスケットボール(高校、大学、WJBLなど)	6.9	4	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.6	3	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.1	4	プロバスケットボール(Bリーグ)	2.4
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	4.2	5	マラソン・駅伝	1.3		プロバスケットボール(Bリーグ)	1.1	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.2
				ラグビー(高校、大学、トップリーグなど)	1.3						

50歳代 (n=503)			60歳代 (n=522)			70歳以上 (n=477)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球(NPB)	11.9	1	プロ野球(NPB)	6.5	1	プロ野球(NPB)	8.6
2	高校野球	4.4	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	1.5	2	高校野球	3.6
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	4.0	3	プロゴルフ	1.1	3	マラソン・駅伝	2.3
4	マラソン・駅伝	2.8	4	高校野球	1.0	4	大相撲	1.3
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.6	5	マラソン・駅伝	0.8	5	プロゴルフ	0.8

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

【表4-4】種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答: n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	継続観戦希望(リピーター)率 (%)	新規観戦希望率 (%)	推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
1	プロ野球(NPB)	30.3	8.0	22.3	3,204	846	2,358
2	フィギュアスケート	14.3	0.2	14.1	1,512	21	1,491
3	高校野球	13.8	2.2	11.5	1,459	233	1,216
4	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	10.7	0.2	10.5	1,132	21	1,110
5	大相撲	10.3	0.4	10.0	1,089	42	1,058
	Jリーグ(J1、J2、J3)	10.3	2.6	7.8	1,089	275	825
7	ラグビー日本代表試合	9.5	0.3	9.1	1,005	32	962
8	プロバスケットボール(Bリーグ)	7.8	0.7	7.1	825	74	751
9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	6.9	0.5	6.4	730	53	677
10	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	6.4	0.3	6.2	677	32	656

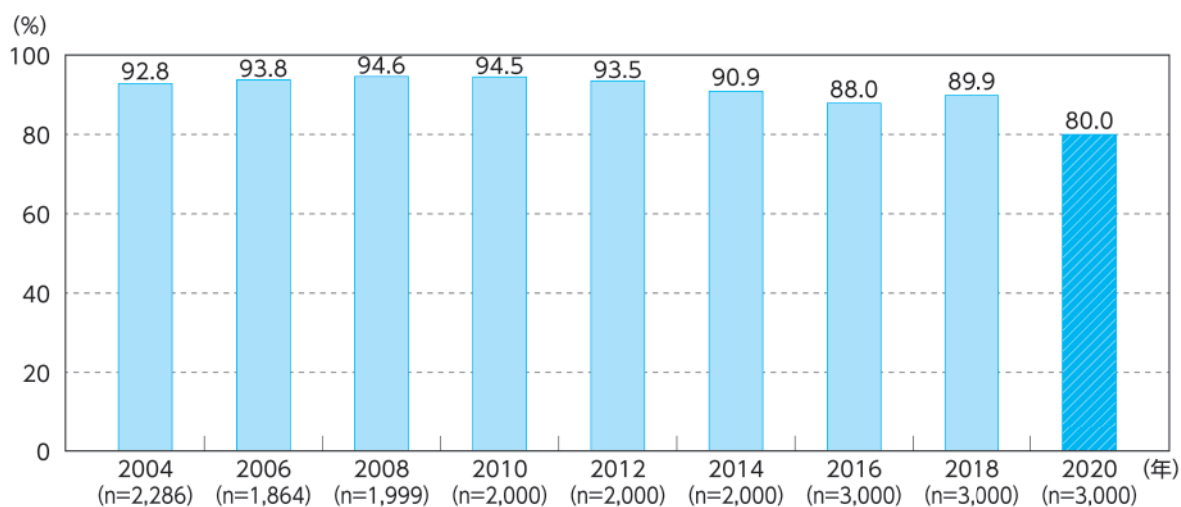
注) 推計観戦人口: 18歳以上人口(20歳以上は2019年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時点の住民基本台帳人口のうち、15～19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の105,750,654人に観戦率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

今後の直接観戦希望率が高い上位10種目を「継続観戦希望（リピーター）率」と「新規観戦希望率」に分けて算出した。直接観戦希望率が最も高い「プロ野球（NPB）」は、継続観戦希望（リピーター）率8.0%、新規観戦希望率22.3%と、どちらの割合も他の観戦種目と比べて高い。また、いずれの種目でも継続観戦希望（リピーター）率に対して新規観戦希望率が高い。

4-3 テレビによるスポーツ観戦率

過去1年間のテレビによるスポーツ観戦状況の推移を図4-4に示した。2020年のテレビスポーツ観戦率は、全体の80.0%であった。2018年の89.9%から9.9ポイント減少し、2004年以降で最低となった。新型コロナウイルス感染拡大に伴うスポーツイベントの中止が放映件数の減少につながり、テレビ観戦率に影響したと考えられる。今回の結果から、過去1年間のわが国におけるテレビスポーツ観戦人口は、8,460万人と推計された。



【図4-4】テレビによるスポーツ観戦率の年次推移

注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

COMMENTS

- バスケットボールのテレビ放送が少ない。もっともり上げて、番組放送を増やしてほしい。(28歳 男性 技能的・労務的職業)
- 今年はコロナの影響で楽しみにしている高校野球がなかったのが残念でなりません。県内の大会はテレビで見ましたが、やはり甲子園は夏の楽しみでした。選手達も3年間頑張ってきたのと思うとかわいそうでした。(78歳 女性 無職)
- スポーツは人生に感動を与えてくれるもの(自分が行う時も、アスリートが戦っている姿も)。コロナ禍の中で今までのように観戦できないのが残念ですが、応援は続けています。(55歳 男性 管理的職業)
- コロナが収まって、早くいろいろなスポーツ番組が見れるといいと思います。コロナの影響で、スポーツも距離を置いて競技をしなければならないのがとても大変だと思います。(62歳 女性 専業主婦・主夫)

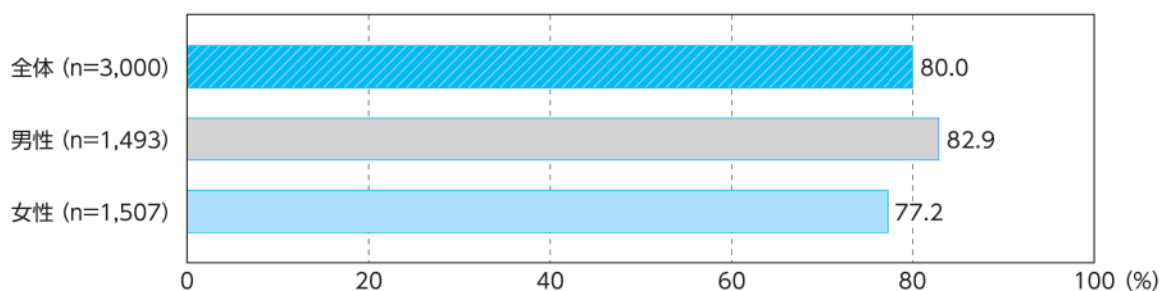
資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

図4-5は、テレビスポーツ観戦率を性別に示している。男性は82.9%、女性は77.2%であり、男性が女性を5.7ポイント上回る。

図4-6に、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のテレビスポーツ観戦率を示した。年代別にみると、18・19歳69.4%、20歳代67.1%、30歳代68.3%と、30歳代までのテレビ観戦率は6割台である。40歳代以上では、40歳代79.0%、50歳代86.9%、60歳代85.8%、70歳以上90.6%と、7割を上回っていた。テレビ観戦率は

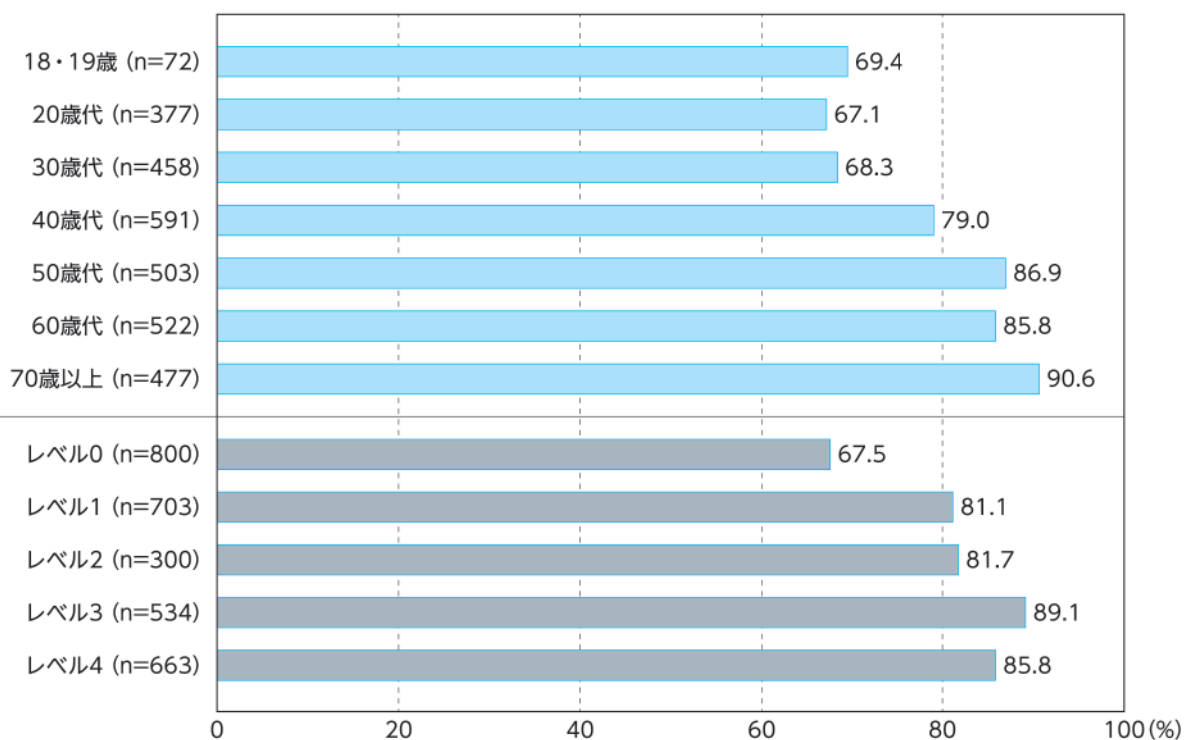
年代によって差があり、特に30歳代以下が低い。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル3」が89.1%と最も高い。次いで「レベル4」85.8%、「レベル2」81.7%、「レベル1」81.1%であり、過去1年間に運動・スポーツを行った者のテレビ観戦率は8割台であった。一方で、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」のテレビ観戦率は67.5%であり、他のレベルと比べて低かった。



【図4-5】テレビによるスポーツ観戦率(全体・性別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



【図4-6】テレビによるスポーツ観戦率(年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

4-4 テレビによるスポーツ観戦種目

表4-5に、過去1年間にテレビ観戦した上位15種目を示した。1位は「プロ野球(NPB)」48.7%であり、2位の「高校野球」36.4%とは10ポイント以上の差がある。3位以降には「フィギュアスケート」30.2%、「マラソン・駅伝」30.1%、「大相撲」28.0%が入った。18歳以上人口を乗じて推計観戦人口を算出すると、1位の「プロ野球(NPB)」は5,150万人であった。

性別にみると、男性は「プロ野球(NPB)」が59.8%と最も高く、「高校野球」41.7%、「大相撲」31.9%と続く。女性は「フィギュアスケート」が42.5%と最も高く、次いで「プロ野球(NPB)」が37.6%、「マラソン・駅伝」が31.2%であった。

テレビ観戦率上位15種目には、女性よりも男性のテレビ観戦率が高い種目が多く、「プロ野球(NPB)」(男性59.8%、女性37.6%)や「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」(男性22.2%、女性5.5%)などは男性が女性を大きく上回る。一方で「フィギュアスケート」は男性17.7%

に対して女性42.5%と、女性が24.8ポイント高い。また、「バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)」(男性9.1%、女性14.5%)も、男性より女性のテレビ観戦率が高かった。

表4-6には、年代別のテレビ観戦種目を示した。すべての年代で「プロ野球(NPB)」が1位であった。2位には、18・19歳から50歳代までは「高校野球」、60歳代では「マラソン・駅伝」、70歳以上では「大相撲」が入った。

表4-7は、今後、テレビによるスポーツ観戦を希望する割合が高かった上位10種目を示している。「プロ野球(NPB)」が43.0%と最も高く、「高校野球」33.6%、「フィギュアスケート」29.4%、「マラソン・駅伝」25.9%、「大相撲」23.4%と続く。テレビ観戦希望率の上位10種目は、過去1年間にテレビ観戦した上位10種目と、種目が一致している。

さらに、テレビ観戦希望率を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて算出すると、いずれの種目も新規観戦希望率より継続観戦希望(リピーター)率が高い特徴がある。

【表4-5】テレビによる種目別スポーツ観戦率(全体・性別:複数回答)

全 体 (n=3,000)				男 性 (n=1,493)			女 性 (n=1,507)		
順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)	推計観戦人口(万人)	順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)	順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)
1	プロ野球(NPB)	48.7	5,150	1	プロ野球(NPB)	59.8	1	フィギュアスケート	42.5
2	高校野球	36.4	3,849	2	高校野球	41.7	2	プロ野球(NPB)	37.6
3	フィギュアスケート	30.2	3,194	3	大相撲	31.9	3	マラソン・駅伝	31.2
4	マラソン・駅伝	30.1	3,183	4	マラソン・駅伝	28.9	4	高校野球	31.1
5	大相撲	28.0	2,961	5	ラグビー日本代表試合	27.7	5	大相撲	24.2
6	ラグビー日本代表試合	24.7	2,612	6	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	25.7	6	プロテニス	22.6
7	プロテニス	21.3	2,252	7	プロゴルフ	25.1	7	ラグビー日本代表試合	21.8
8	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	20.2	2,136	8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	22.2	8	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	14.8
9	プロゴルフ	17.8	1,882	9	Jリーグ(J1、J2、J3)	21.3	9	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	14.5
10	Jリーグ(J1、J2、J3)	15.5	1,639	10	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	20.0	10	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	13.1
11	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	13.8	1,459		プロテニス	20.0	11	プロゴルフ	10.6
12	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	13.1	1,385	12	フィギュアスケート	17.7	12	Jリーグ(J1、J2、J3)	9.8
13	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	11.8	1,248	13	海外プロサッカー(欧州、南米など)	11.2	13	Tリーグ(卓球)	8.0
14	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	10.5	1,110	14	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	9.1	14	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	6.2
15	Tリーグ(卓球)	7.2	761	15	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	9.0	15	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	5.5
	テレビで観戦した種目はない	19.9			テレビで観戦した種目はない	16.9		テレビで観戦した種目はない	22.8

注) 推計観戦人口: 18歳以上人口(20歳以上は2019年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時点の住民基本台帳人口のうち、15～19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の105,750,654人に観戦率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

【表4-6】テレビによる種目別スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=72)			20歳代 (n=377)			30歳代 (n=458)			40歳代 (n=591)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	33.3	1	プロ野球 (NPB)	34.5	1	プロ野球 (NPB)	37.6	1	プロ野球 (NPB)	48.2
2	高校野球	23.6	2	高校野球	26.0	2	高校野球	30.1	2	高校野球	34.2
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	16.7	3	フィギュアスケート	19.6	3	ラグビー日本代表試合	21.4	3	ラグビー日本代表試合	26.9
4	Jリーグ (J1、J2、J3)	13.9	4	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	16.2	4	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	21.0	4	フィギュアスケート	26.1
	マラソン・駅伝	13.9	5	ラグビー日本代表試合	14.1	5	フィギュアスケート	19.9	5	マラソン・駅伝	24.0
6	海外プロサッカー(欧州、南米など)	12.5	6	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	13.0	6	マラソン・駅伝	17.9	6	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	20.5
	ラグビー日本代表試合	12.5		マラソン・駅伝	13.0	7	大相撲	14.8	7	大相撲	17.9
8	フィギュアスケート	11.1	8	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	11.1		Jリーグ (J1、J2、J3)	14.8	8	プロテニス	15.7
	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	9.7	9	バレーボール日本代表試合(嵐神NIPPON)	10.3	9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	14.0	9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	15.4
9	プロテニス	9.7	9	プロテニス	10.3	10	プロテニス	13.1	10	Jリーグ (J1、J2、J3)	15.1
	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	9.7									

50歳代 (n=503)			60歳代 (n=522)			70歳以上 (n=477)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	54.3	1	プロ野球 (NPB)	53.4	1	プロ野球 (NPB)	62.3
2	高校野球	38.2	2	マラソン・駅伝	40.8	2	大相撲	57.4
3	マラソン・駅伝	37.2	3	大相撲	40.2	3	高校野球	49.1
4	フィギュアスケート	34.4		高校野球	40.2	4	マラソン・駅伝	45.9
5	ラグビー日本代表試合	34.0	5	フィギュアスケート	38.7	5	フィギュアスケート	42.6
6	大相撲	30.8	6	プロテニス	28.9	6	プロゴルフ	33.1
7	プロテニス	29.6	7	ラグビー日本代表試合	28.0	7	プロテニス	29.1
8	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	26.0	8	プロゴルフ	27.6	8	ラグビー日本代表試合	22.2
	Jリーグ (J1、J2、J3)	22.3	9	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	18.4	9	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	19.7
9	プロゴルフ	22.3	10	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	16.9	10	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	18.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

【表4-7】テレビによる種目別スポーツ観戦希望状況(複数回答: n=3,000)

順位	観 戦 種 目	観戦希望率 (%)	継続観戦希望 (リピーター) 率 (%)	新規観戦希望率 (%)	推計観戦希望人口 (万人)	推計継続観戦希望 (リピーター) 人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
1	プロ野球 (NPB)	43.0	41.1	1.8	4,547	4,346	190
2	高校野球	33.6	30.8	2.9	3,553	3,257	307
3	フィギュアスケート	29.4	25.9	3.5	3,109	2,739	370
4	マラソン・駅伝	25.9	24.3	1.6	2,739	2,570	169
5	大相撲	23.4	22.0	1.5	2,475	2,327	159
6	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	21.6	17.0	4.6	2,284	1,798	486
7	ラグビー日本代表試合	20.4	18.0	2.4	2,157	1,904	254
8	プロテニス	18.8	16.7	2.2	1,988	1,766	233
9	プロゴルフ	14.7	14.1	0.7	1,555	1,491	74
10	Jリーグ (J1、J2、J3)	14.6	13.1	1.5	1,544	1,385	159

注) 推計観戦人口: 18歳以上人口(20歳以上は2019年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時点の住民基本台帳人口のうち、15～19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の105,750,654人に観戦率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

4-5 インターネットによるスポーツ観戦率

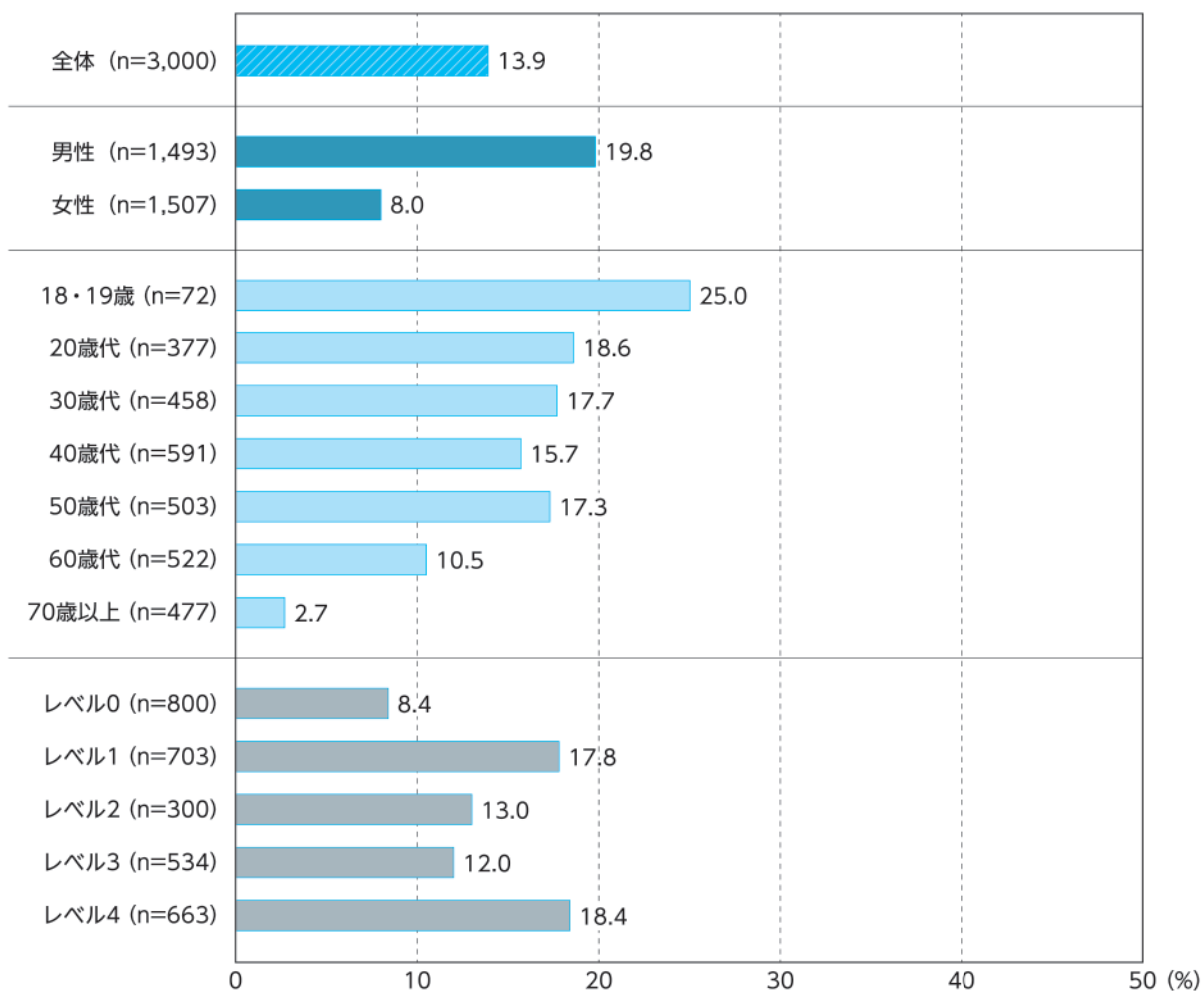
図4-7に、性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別の過去1年間のインターネットスポーツ観戦率を示した。インターネットスポーツ観戦率は、全体の13.9%であった。今回の結果から、過去1年間のわが国におけるインターネットスポーツ観戦人口は、1,470万人と推計された。

性別にみると、男性は19.8%、女性は8.0%であり、男性が女性を11.8ポイント上回る。

年代別にみると、18・19歳が25.0%で最も高い。20歳代18.6%、30歳代17.7%、40歳代15.7%、50歳代

17.3%と、20歳代から50歳代までのインターネット観戦率は1割台後半である。60歳代は10.5%、70歳以上は2.7%であった。インターネット観戦率は年代によって差があり、特に18・19歳が高い。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」が18.4%と最も高い。次いで「レベル1」17.8%、「レベル2」13.0%、「レベル3」12.0%であり、過去1年間に運動・スポーツを行った者のインターネット観戦率は1割台であった。一方で、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」のインターネット観戦率は8.4%であった。



【図4-7】インターネットによるスポーツ観戦率(全体・性別・年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

4-6 インターネットによるスポーツ観戦種目

表4-8に、過去1年間にインターネット観戦した上位15種目を示した。1位は「プロ野球 (NPB)」5.0%で、2位以降には「格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)」2.6%、「海外プロサッカー (欧州、南米など)」2.4%、「Jリーグ (J1、J2、J3)」2.3%、「メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)」1.9%が入った。

性別にみると、1位は男女ともに「プロ野球 (NPB)」で、

男性7.7%、女性2.3%と、男性が女性よりも5.4ポイント高い。2位以下は、男性では「格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)」4.8%、「海外プロサッカー (欧州、南米など)」4.0%、「メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)」3.4%、「Jリーグ (J1、J2、J3)」3.3%と続く。女性では2位に「Jリーグ (J1、J2、J3)」が同率で1.3%、4位に「海外プロサッカー (欧州、南米など)」0.9%、5位に「フィギュアスケート」0.7%が入った。

【表4-8】 インターネットによる種目別スポーツ観戦率 (全体・性別：複数回答)

全 体 (n=3,000)			男 性 (n=1,493)			女 性 (n=1,507)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	5.0	1	プロ野球 (NPB)	7.7	1	プロ野球 (NPB)	2.3
2	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	2.6	2	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	4.8	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	1.3
3	海外プロサッカー (欧州、南米など)	2.4	3	海外プロサッカー (欧州、南米など)	4.0		プロテニス	1.3
4	Jリーグ (J1、J2、J3)	2.3	4	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	3.4	4	海外プロサッカー (欧州、南米など)	0.9
5	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	1.9	5	Jリーグ (J1、J2、J3)	3.3	5	フィギュアスケート	0.7
6	F1やNASCARなど自動車レース	1.4	6	F1やNASCARなど自動車レース	2.5	6	高校野球	0.6
7	高校野球	1.3	7	プロゴルフ	2.3	7	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	0.5
	プロゴルフ	1.3	8	高校野球	2.0		バスケットボール (高校、大学、WJBLなど)	0.5
9	プロテニス	1.2	9	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	1.6		プロバスケットボール (Bリーグ)	0.5
10	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	0.9	10	プロテニス	1.1		メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	0.5
11	プロバスケットボール (Bリーグ)	0.8	11	プロバスケットボール (Bリーグ)	1.0	11	プロゴルフ	0.4
12	海外プロバスケットボール (NBA)	0.6	12	海外プロバスケットボール (NBA)	0.9		ラグビー日本代表試合	0.4
13	大相撲	0.5	13	大相撲	0.6	13	F1やNASCARなど自動車レース	0.3
	フィギュアスケート	0.5	14	アマチュア野球 (大学、社会人など)	0.5		大相撲	0.3
15	バスケットボール (高校、大学、WJBLなど)	0.4		マラソン・駅伝	0.5		サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	0.3
	ラグビー日本代表試合	0.4		ラグビー日本代表試合	0.5		バレーボール (高校、大学、Vリーグなど)	0.3
	インターネットで観戦した種目はない	86.0		インターネットで観戦した種目はない	80.0		ラグビー (高校、大学、トップリーグなど)	0.3
							インターネットで観戦した種目はない	91.9

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

表4-9には、年代別のインターネット観戦種目を示した。すべての年代で「プロ野球 (NPB)」が1位であった。2位には、18・19歳と20歳代で「Jリーグ (J1、J2、J3)」、30歳代で「格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)」、40歳代と50歳代で「海外プロサッカー (欧州、南米など)」、60歳代で「プロゴルフ」と「メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)」、70歳以上で「プロゴルフ」が入った。

表4-10は、今後、インターネットによるスポーツ観戦を希望する割合が高かった上位10種目を示している。「プロ野球 (NPB)」が11.2%と最も高く、「海外プロサッカー

(欧州、南米など)」6.4%、「メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)」5.6%、「サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)」5.3%、「格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)」5.2%と続く。また、過去1年間のインターネット観戦率では13位であった「フィギュアスケート」が、5.1%で6位に入っている。

さらに、インターネット観戦希望率を「継続観戦希望 (リピーター) 率」と「新規観戦希望率」に分けて算出すると、いずれの種目も継続観戦希望 (リピーター) 率より新規観戦希望率が高い特徴がある。

【表4-9】インターネットによる種目別スポーツ観戦率 (年代別：複数回答)

18・19歳 (n=72)			20歳代 (n=377)			30歳代 (n=458)			40歳代 (n=591)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	9.7	1	プロ野球 (NPB)	7.7	1	プロ野球 (NPB)	5.7	1	プロ野球 (NPB)	4.9
2	Jリーグ (J1、J2、J3)	8.3	2	Jリーグ (J1、J2、J3)	4.0	2	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	5.2	2	海外プロサッカー (欧州、南米など)	3.4
3	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	6.9	3	海外プロサッカー (欧州、南米など)	3.7	3	海外プロサッカー (欧州、南米など)	3.7	3	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	3.2
4	海外プロサッカー (欧州、南米など)	5.6	4	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	3.4	4	Jリーグ (J1、J2、J3)	2.8	4	Jリーグ (J1、J2、J3)	2.9
5	バスケットボール (高校、大学、WJBLなど)	4.2	5	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	2.7	5	F1やNASCARなど自動車レース	2.4	5	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	2.0
	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	4.2									

50歳代 (n=503)			60歳代 (n=522)			70歳以上 (n=477)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	5.8	1	プロ野球 (NPB)	4.4	1	プロ野球 (NPB)	1.3
2	海外プロサッカー (欧州、南米など)	3.0	2	プロゴルフ	2.3	2	プロゴルフ	1.0
3	F1やNASCARなど自動車レース	2.6	3	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	2.3	3	高校野球	0.8
	プロテニス	2.6	4	プロテニス	1.9	4	大相撲	0.6
5	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	2.2	5	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	1.5		格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	0.4
	Jリーグ (J1、J2、J3)	2.2				5	バレーボール (高校、大学、Vリーグなど)	0.4
	プロゴルフ	2.2					バレーボール日本女子代表試合 (火の鳥NIPPON)	0.4
	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	2.2					フィギュアスケート	0.4

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

【表4-10】インターネットによる種目別スポーツ観戦希望状況 (複数回答：n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	継続観戦希望 (リピーター) 率 (%)	新規観戦希望率 (%)	推計観戦希望人口 (万人)	推計継続観戦希望 (リピーター) 人口 (万人)	推計新規観戦希望人口 (万人)
1	プロ野球 (NPB)	11.2	4.4	6.8	1,184	465	719
2	海外プロサッカー (欧州、南米など)	6.4	2.0	4.4	677	212	465
3	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	5.6	1.5	4.1	592	159	434
4	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	5.3	0.8	4.5	560	85	476
5	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	5.2	2.2	3.0	550	233	317
6	フィギュアスケート	5.1	0.4	4.7	539	42	497
7	高校野球	4.8	1.0	3.8	508	106	402
8	Jリーグ (J1、J2、J3)	4.5	2.1	2.4	476	222	254
	プロテニス	4.5	0.9	3.6	476	95	381
10	F1やNASCARなど自動車レース	4.4	1.2	3.2	465	127	338

注) 推計観戦人口：18歳以上人口 (20歳以上は2019年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時点の住民基本台帳人口のうち、15～19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した) の105,750,654人に観戦率を乗じて算出。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020